

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等



北朝鮮当局による 拉致問題から人権問題を考える

岡山県立水島工業高等学校 第1・3学年

1 教科等 特別活動(ロングホームルーム)

2 単元名 「北朝鮮当局による拉致問題」から人権問題を考える

3 指導上の立場

○単元(題材)観

北朝鮮当局による拉致問題は、主に日本海側において不自然なかたちで行方不明になった方々が、北朝鮮当局により拉致されており、そのうち5名が2002年の日朝首脳会談を経て日本に帰国を果たしたが、なお12名が北朝鮮に残されている問題である。この拉致問題は、2002年当時はマスメディアによる報道が過熱していたものの、現在はマスメディアにおいて取り扱われる機会も以前に比べて少なくなっている。

全校生徒を対象とした事前アンケートによれば、拉致問題そのものを知らない生徒の割合は42.6%にのぼり、横田めぐみさんの写真を見て名前を正しく答えられた生徒は4名のみであった。加えて、日本に帰国された拉致被害者の蓮池薫さんは著書や教員向け講演会の中で「風化が一番怖い」と述べている。

そこで本時では、拉致被害者の1人である横田めぐみさんとそのご家族の動向をまとめたアニメ「めぐみ」の視聴を中心として拉致問題を知る機会をつくるとともに、拉致問題を人権問題として捉えることができる活動を実施する。

○本単元(題材)で工夫する点や手立て

本時では、政府の拉致問題対策本部が企画・制作したアニメ「めぐみ」を、横田めぐみさん本人・ご両親の気持ちを考えながら視聴させ、拉致問題がどのようなものであるか概略を捉えさせる。そのうえで、横田めぐみさんやご両親がどのような権利を侵害されたのかをイメージしやすくするため、unicef制作の「子どもの権利条約カードブック」を活用し、どの条文に該当する人権を侵害されたのかをペアワークを通じて考えさせる。

4 評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
拉致問題に関する知識を身に付けている。	拉致被害者やその家族の気持ちを考えることができる。 拉致問題の解決策を個人またはグループで考察し、提案することができる。	拉致問題を人権問題として受け止め、問題の解決に向けて自分にできることを考えようとしている。

5 本時(本実践)と人権教育

- ・北朝鮮当局による拉致問題について理解を図る。＜知識的側面＞
- ・拉致被害者等が奪われた人権について考えることを通して、拉致問題を人権問題として捉え、問題の解決に向けて関わろうとする意欲や態度を育てる。＜価値的・態度的側面＞

6 本時の目標

啓発アニメ「めぐみ」を視聴することによって北朝鮮当局による拉致問題や人権について理解を深めるとともに、解決策について考えることができる。

7 本時の展開

人権教育の視点から特に重要なこと …… ★

学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法
〈導入〉 1 北朝鮮当局による拉致問題に関する生徒アンケートの結果と本時の目標を知る。	○事前に行った「拉致問題」に関する生徒アンケートの結果を公表する。	
拉致問題から人権への理解を深めよう		
〈展開〉 2 アニメ「めぐみ」を視聴する（25分）。 3 北朝鮮当局による拉致問題を人権問題として理解するとともに、関心をもつ。	・めぐみさんの気持ち、両親の気持ちなどの視点を設けて視聴させる。 ・感じたこと、考えたことを随時ワークシートへ記録するよう伝える。 ・視聴後、2、3人の生徒を指名して、めぐみさん、両親がどのような気持ちになったのか、発表させる。 ○北朝鮮当局が日本人を拉致した背景を説明する。 ・当時の国際情勢を踏まえて説明し、ワークシートに記入させる。 ★めぐみさんが奪われた権利を考えさせる。 ・「子どもの権利条約カードブック」から、めぐみさんがどのような権利を奪われたのか選び、選んだ理由をワークシートに記入させる。 ・隣同士で選んだ権利とその理由を発表させ、その後全体で共有する。 ○拉致被害者の帰国の経緯と現在の拉致被害者について説明する。 ・2002年10月に拉致被害者のうち5名が帰国したことを説明する。 ・帰国した5名を含む17名の拉致被害者がいること、拉致の可能性が排除できない「特定失踪者」が何人もいること、岡山県でも北朝鮮当局によって拉致された可能性を排除できない人が存在していることを説明する。	めぐみさん本人や両親の気持ちを想像し、ワークシートに記入できる。 【思考・判断・表現】 （ワークシート）
〈まとめ〉 4 本時のまとめをする。	★拉致問題の解決に向けて、自分にできることを考えさせる。 ・個人でワークシートに記入させた後、隣同士で考えた内容を発表させ、その後全体で共有する。 ・ワークシートにある蓮池薫さんの言葉を伝える。	拉致問題を人権問題として捉え、問題の解決に向けて自分にできることを考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （ワークシート）



（アニメ「めぐみ」
/政府拉致問題対策本部HP より）

LHR 「北朝鮮当局による拉致問題等」

1. アニメ「めぐみ」を視聴する。

めぐみさんの気持ち	両親の気持ち
-----------	--------

2. 何故、北朝鮮当局は日本人を拉致したのだろう。

--

3. めぐみさんはどのような権利を奪われたのだろう。

選んだカード	理由
第（ ）条	
第（ ）条	
第（ ）条	

4. 拉致被害者の方々はその後どうなっただろう。

2002 年、拉致被害者のうち5名が帰国を果たす。

他にも拉致被害者はいるだろうか。

特定失踪者とは？

県内に拉致被害者・特定失踪者はいるだろうか。

5. 拉致問題に対して自分にはどのようなことができるか。

--

※拉致被害者、蓮池薫さんの言葉

「拉致被害者の方々は、拉致は北朝鮮当局が行ったことであり、
北朝鮮の一般市民を恨んだり憎んだりしているわけではない。」

写真

(北朝鮮から帰国した拉致被害者が飛行機から降りている場面)

写真は著作権があるため省略します

高齢者や障害のある人が 運転しやすい自動車を考える

岡山県立水島工業高等学校 第3学年



1 教科等 自動車工学

2 単元名 人と自動車

3 指導上の立場

○題材(単元)観

自動車は現代の生活において必要不可欠なものである。多くの生徒にとっても身近であり、今後自ら運転し、利用するようになる。自動車は、工業における様々な技術によって完成している製品であり、技術や安全性をたゆみなく改善し、向上を図ることですべての人々に有益なものになっていくことが求められる。例えば、高齢者や身体に障害のある人等が、日々の生活を楽しみ、社会に意欲的に参加するためには、自由にかつ快適に移動する手段が必要であり、身体が不自由な方でも運転ができるように各種運転補助装置が搭載された車両などが開発されており、その役目を担っている。その自動車の学習を通じて、ものづくりに携わる者として環境問題や人権課題への理解や意識の向上に繋げていきたいと考えている。

○本題材(単元)で工夫する点や手立て

自動車にとって速く走ることやデザインも設計における重要な要素である。しかし、普段自動車を利用しているユーザーでも気づきにくい安全や環境などに配慮された部分は存在している。各自動車メーカーや製造企業がどのような意図をもって製造・開発を行っているのか、諸問題への改善に向けてどのような取組を行っているかを動画によって紹介することで、ものづくりに携わる者として持つべき視点を考えさせたい。

4 単元の目標

○人と自動車について環境問題や人権課題を踏まえて理解する。【知識・技能】

○自動車に関連した課題を科学的根拠に基づいて考察し、改善に向けた方法を提案する。

【思考・判断・表現】

○自動車の学習を通じて環境問題や人権課題などの現状について、主体的かつ協働的に理解しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 指導計画

主な学習活動	評価規準
人と自動車 第1時 自動車と環境 第2時 自動車と安全 第3時 自動車と豊かな生活(本時)	◇環境問題などの原因と解決策について科学的視点・機械工学的視点から理解し、知識として身に付いている。【知識・技能】 ◇自動車に関連した課題を個人またはグループで考察し、改善に向けた意見を端末を利用して提案することができる。【思考・判断・表現】 ◇環境問題や人権課題などの自動車に関連した課題について積極的に理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時と人権教育

高齢者や障害のある人等が自動車を運転する際の困難さを知り、運転しやすい自動車について考察することで、課題を抱える人々を、ものづくりを通して支援しようとする意欲や態度を育成する。＜価値的・態度的側面＞

7 本時の目標

自動車の運転において高齢者や障害のある人等の抱える課題を考察し、改善に向けた意見を提案することができる。【思考・判断・表現】



8 本時の展開

人権教育の視点から特に重要なこと …… ★

学習指導	教師の指導・支援上の配慮事項など	評価規準・評価方法
〈導入〉 1 本時の内容や目標を確認する。	○誰もが豊かな生活を送るために自動車はどうあるべきかを問う。 ・まず豊かな生活とはどのような生活かを考えさせる。 ・社会の中における自動車の役割や誰でも運転しやすい自動車はどのような自動車かを考えさせる。 ○自動車の運転が難しいのはどのような人かを問う。 ⇒高齢者、障害のある人、外国人、妊婦など	
高齢者や障害がある人等の困難さを考え、解決案を提案することができる。		
〈展開〉 2 課題の解決案を考え、意見を共有する。 3 メーカーの福祉車両の事例を知る。	★高齢者や障害のある人等が自動車を利用する際に直面する課題をグループで考え、それに対する解決案を話し合い、意見をまとめさせる。 ・高齢者や障害のある人の人口に占める割合のデータを示す。 ・自動車の運転席などの写真を示しながら、高齢者や障害のある人の立場に立って考えさせる。 ○まとめた意見を発表し全体で共有する。 ・jamboardを利用する。 ○各メーカーの福祉車両を資料動画などで紹介する。 ・トヨタ自動車や本田技研工業株式会社など ○どのような工夫があるかメモをとらせる。	◇自動車運転における高齢者や障害のある人等の抱える課題を考察し、改善に向けた意見を提案できる。 【思考・判断・表現】 (ワークシート・発表) 
〈まとめ〉 4 本時のまとめをする。	○本時での気づきや今後生かしていきたい考えをまとめさせる。	